

\*歴史史跡はパンフレット・インターネットを参考。

45Mの同期7名で恒例の鎌倉探訪をご紹介します。

磐田、高崎、熊谷、東村山、茅ヶ崎、横浜、印西からいざ鎌倉、大船のかんのん食堂で打ち上げ宴会を楽しみました。

**1.鶴岡八幡宮**



大銀杏と八幡宮

当宮は康平6年（1063）源頼義が奥州を平定して鎌倉に帰り、源氏の氏神として出陣に際してご加護を祈願した京都の石清水八幡宮を由比ヶ浜辺にお祀りしたのが始まりです。  
その後、源氏再興の旗上げをした源頼朝公は、治承4年（1180）鎌倉に入るや直ちに御神意を伺って由比ヶ浜辺の八幡宮を現在の地にお遷しし、建久2年（1191）には鎌倉幕府の宗社にふさわしく上下両宮の現在の姿に整え、鎌倉の町づくりの中心としました。

**御祭神:** 応神天皇（おうじんてんのう）  
比売神（ひめがみ）  
神功皇后（じんぐうこうごう）



若宮大路を望む

**2.元八幡(由比若宮)**

元八幡宮は、源頼朝の先祖の源頼義の子源義家と、「前九年の役」（1051～1062年）で奥州の豪族・安倍氏（安部氏の反乱）を討伐した。源頼義は「前九年の役」にのぞんで源氏の氏神である京都の石清水八幡宮に戦勝祈願を行い、勝利したお礼として、役を平定した翌年の康平6年(1063)に、由比の地に（由比郷）に京都・石清水八幡宮を移し、祀った。源氏の氏神である八幡宮を、開府以前の鎌倉に祀ったということは、鎌倉が源氏にとって如何に重要で有ったかが伺える。



**宇佐神宮遙拝所**  
全国にある八幡宮の総本宮である宇佐神宮（大分県に鎮座）をここからお参りするところです。  
故郷に祈願

**3.随我山来迎寺**



材木座にある来迎寺は、今は時宗派の寺院。かつてこの地に源頼朝が三浦大介義明の菩提を弔うため、建久五年（1194）に建立した真言宗能蔵寺があった。  
開山の音阿上人が時宗に帰依したため、建武二年(1335)に改宗、来迎寺となった。  
三浦半島の衣笠城主であった義明は、源頼朝旗揚げの時に、畠山重忠の軍勢と闘い89歳で戦死した。頼朝は義明の武功を称えたと言う。また由比ガ浜で畠山軍との戦いで17歳の若狭で戦死した多々良三郎重春の墓が並んで立っている。  
3月には本堂前のミモザの花が見事です。



三浦一族の墓

**4.内裏山九品寺**

九品寺は浄土宗の寺。  
この寺は元弘三年（1333）の鎌倉攻めの折、新田義貞が材木座に本陣を構えた。北条高時以下一族は自害し、鎌倉幕府は滅亡した。  
その三年後、建武三年（1336）に北条方の大勢の戦死者を弔うため、新田義貞が本陣跡地に建てた寺。  
九品寺は鎌倉に建てた唯一の寺です。  
九品とは極楽往生を願う人の生前の行いによって定められた九種類の往生の有様をいう。上品、中品、下品のそれぞれに上生、中生、下生があり、合わせて九品とされる。



**樹齢500年の松**  
我々が参上するのを500年待っていてくれたか。

## 5.天照山光明寺



総門

光明寺は、浄土宗大本山の格式にふさわしく、鎌倉有数の大伽藍を誇る。

この寺の創建は鎌倉時代の寛元元年(1243)です。

開基は鎌倉幕府第四代執権・北条経時です。

開山は浄土宗の第三祖の良忠。

鎌倉には比較的少ない浄土宗の寺で元関東総本山で、第五代執権・北条時頼以降も歴代執権の帰依を受け、七堂伽藍を整えた大寺院に発展。

念仏道場の中心となった。

江戸時代も徳川家康や家綱の擁護を受け、学問と修業の中心として栄えた。

また皇室との関係も深く、後花園天皇からは山門にある「天照山」の掲額を、後土御門天皇からは、関東における念仏修業根本道場として「関東総本山」の称号を受け、国と国民の平和を祈る「勅願所」となった。

本尊は阿弥陀如来（県重文）。



山門



大聖閣(7月には観蓮会が開かれる)



三尊五祖の庭園



かながわの景観50選(向いは江ノ島)



材木座海岸より和賀江島を望むが満ち潮で渡れず  
(各自波瀾万丈の生き様を望むかな)